

新型開発の意図

「ちょうどいい」を、さらに一歩進める。

スモールカーとミニバンを融合させ、2001年にコンパクトミニバンのカテゴリーを創出したモビリオを起点とし、2008年に先代のフリードは誕生しました。2代目となる新型フリード/フリード+の開発コンセプトは、「いつでも、どこでも、だれでも7days Wonderful Mobility」です。ミニバンなのにコンパクト、コンパクトだけどミニバン。この相反する要素に加え、使い勝手や快適性の技術を、限られた空間の中にどれだけ知恵を絞って織り込むのか。また、それをスタイリングでいかにバランス良く見せるのか。これこそがフリード/フリード+というクルマに課せられた課題であり、それが最大の価値となっています。

パッケージ、デザイン、メカニズム。すべての要素を極限まで突き詰めてコンパクトサイズに凝縮する。誰が運転しても、もっと自在に使いこなせ、もっと自由に暮らしが広がる。そんな想いを新型フリード/フリード+に詰め込みました。

- | | |
|------|--|
| いつでも | ひとりで使う平日から、多人数で楽しむ週末まで、一週間を通して一台でこなせること。 |
| どこでも | 日本全国、北海道から沖縄まで。街中でも郊外でも、取り回しや使い勝手で満足できること。 |
| だれでも | あらゆる人が積極的に選べるクルマであること。 |

このコンセプトを体現するために、新型フリードは、ファミリーユーザーやアクティブユーザー、さらに車いすをお使いの方など、多様なニーズに応えられるワンスタイリングとしながら、全部で16通りのバリエーションを設定しています。「ちょうどいい」という言葉が、まさに代名詞となったフリード。この「ちょうどいい」をさらに一歩進めてさまざまな魅力を加え、幅広いお客様すべてを笑顔にし、もっと自由に、もっと自在に暮らしを広げるクルマ。それが新型フリード/フリード+です。



開発責任者

田辺 正 (たなべ ただし)

(株)本田技術研究所 主任研究員

1990年、(株)本田技術研究所入社。
シビック、CR-X、CR-V、フィットなど数々の車種の設計を手がける。
2005年に初代フィット、2011年には4代目オデッセイのLPL代行をそれぞれ担当。
今回、2代目フリード/フリード+のLPLを務める。
趣味はアーチェリー。愛車はアコード、フリード。